

ショートステイ実施施設における利用者の施設環境に関する調査報告

○立松麻衣子*, 斎藤功子**, 西村一朗*⁸(*奈良女大・院, **池坊短大, *³奈良女大)

[目的]高齢者を対象としたショートステイには、利用主体である要援護高齢者と、日常の介護負担軽減のために利用する介護者、そしてサービスを提供する施設の三者が関わっている。本研究は、ショートステイの利用主体である要援護高齢者の生活拠点は居宅であり、ショートステイは居宅介護の延長であるという観点に立って、ショートステイがどうあるべきかを考えようとするものである。そこで本報告では、ショートステイ実施施設のうち老人短期入所施設および在宅複合型施設を対象に、施設内におけるショートステイ利用者の施設環境の実態を把握し、今後の課題を検討する。

[方法]全国の老人短期入所施設および在宅複合型施設全 130 施設を対象に、施設平面図を採取するとともに、施設空間や施設運用に関する郵送調査を実施した。調査時期は平成 12 年 12 月～平成 13 年 1 月である。

[結果]ショートステイ初回利用前に施設職員が利用者の自宅を訪ねる事前面接が実施されている場合に、その面接結果が施設における利用居室の決定や、利用者各々に合った居室内の環境作り、生活サイクル、ケア内容などに反映されている。また、ショートステイの利用をきっかけに、施設から居宅における介護者に対して、住宅改修や介護機器導入の助言、居宅でのケア内容の指導が行われることがある。しかしこれらの実施状況は施設によって異なり、現状では居宅と施設間の介護方法や住空間に連続性がなく、落差が大きい場合もあると思われる。ショートステイ実施施設においては、住空間整備や介護方法における居宅介護と施設介護のつながりを確立する必要があると考える。